

# インターネット研究現場からの便り

砂原 秀樹

奈良先端科学技術大学院大学教授 / WIDE ボードメンバー

「こ数年、これまでかかわることのなかった分野の人々と、一緒に仕事をする機会が増えてきた。これは、インターネットの役割がさまざまな社会活動を支える基盤となったことを意味していると思う。今回は、そうした面からの話をしていくことにしよう。」

## Letter #12 「社会基盤としてのインターネット」



実は、2005年になって3件ほど、医師をはじめとする医療従事者の方々が参加する学会や研究会で研究発表をしている。何をしているかというと、インターネットに流通する医療関係の情報について調査を行い、その種別や内容の分析を行っているのである。特に、一般的にはあまり知られていない病気について広く正しく認識してもらい、患者の方々に対して誤解や差別が生じないようにするための方策について検討を進めている。そのためには、関連する情報としてどのような情報がインターネット上で流通しているのか、間違った情報はどの程度あるのかといったことを知らなければならず、そのお手伝いをしているわけである。

一方、病気の治療には欠かせない医薬品でも、使い方を誤ると危険な状況を生み出して犯罪に発展するケースも出てくる。例えば、薬物の不正入手といったアンダーグラウンドの情報については、アクセスできない方が好ましい。こうした情報へのアクセスから利用者を守る手段についても検討を行っている。そのため、通常の利用でどの程度のアンダーグラウンド情報に到達してしまうのかといった調査も進めている。

まだまだスタートさせたばかりの研究であるため、技術、教育、法律さまざまな面での検討が必要であるが、1つわかっていることは、医師も患者もごく一般的な道具としてインターネットを利用するようになってきているということである。「病気かな?」と思った際に症状を入力して情報収集したり、処方された薬についてその効能や副作用、注意事項について調べたりすることは、ごく普通に行われていることなのである。医師も、病気に関する説明や、簡単な相談を受け付けるためにインターネットを利用してい

る。また、一般にはあまり知られていない病気の患者の方々が、インターネット上にコミュニティーを作っていたりブログを書いたりして、それによって従来では病気と気付かずに悩んでいたケースが、正しく病気として認知されて治療に入ることができたという事例も複数報告されるようになってきているようだ。

こうしたインターネットの利用者は、インターネットがどのように作られてどのように動いているかということについては気にしていない。しかし、どのように使えばもっと有効に使えるかを常に考えている。「もっとこんなことができたらいいいのに、どうしてできないの?」といった彼らの要望や疑問に、少しずつでもいいから答えていくことが、さらにインターネットを発展させていくためのエンジニアの義務ではないかと考えている。

医療分野だけでなく、さまざまな分野の人々の意見を聞いてみると、実は同じような要求が含まれており、それらを積み重ねていくと次世代のインターネットとなっているという発見にしばしば出合う。なんとなく、そのあたりのおもしろさに気がついた今日この頃だったりする。

今求められていることは「セキュリティー・プライバシー」「情報の流れの制御(発信した情報がどこへ行きどのように利用されるかを制御すること)」「情報の正当性の検証(正しい情報、有益な情報であるということを示すか)」である。難しい課題ばかりであるが挑戦しがいいものばかりだと考えている。

この仕事を始めてあるコミュニティーの人々に、「あなたがインターネットを作ってくれたから、私たちはこの活動をする事ができました。ありがとうございます」といわれることがあった。エンジニア冥利に尽きるとはこのことである。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)